

あなたと市政をおすゝめ



広報
No.224

かんおんじ

2024 / 令和6年

6 June

特集 地域をつなぐ13のちから



観音寺市の現状と課題

64歳以下が急激に減少

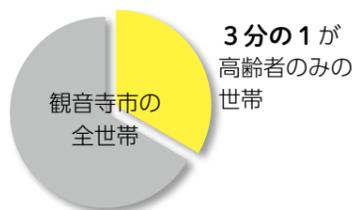
年少人口や生産年齢人口の減少が深刻化し、高齢者の暮らしを支える担い手が不足

64歳以下の人口は2018年以降、6年で3000人以上減少



一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加

核家族化が進む中、家族だけでなく、地域全体で助け合う仕組み作りが大切に



要介護1から在宅生活をあきらめる人が多い

要介護1で居場所を変更する割合が最も高い。認知症、生活不安から在宅生活を断念

「介護が必要になっても、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい」人は約4割



「あなたの困っていることは何ですか」～第2層協議体が実施「地域の困りごとアンケート」より～

- 移動手段（通院、買い物）
- おしゃべりなどのできる居場所がない
- 買い物やごみ出し、掃除
- 話し相手がない
- 草抜きなど庭の手入れ
- 災害時の不安
- 電球交換
- 健康に不安

ちょっと助けてほしいと思っている人が多い。困ったときに「助けてほしい」と言える地域に！

参考：「観音寺市高齢者福祉計画 第9期介護保険事業計画（令和6～8年度）」

観音寺市の地域づくりの組織図

観音寺市では「あきらめんでえんで 望む暮らしを最後まで～つながる・支える・地域とともに～」をコンセプトに、地域住民主体で、地域でつながり続け、支え続ける取り組みが行われています。「地域のために何かしたい」という思いのある皆さんが第1層、第2層協議体で活躍しています。



特集 地域をつなぐ13のちから

かんおんじの全13地区で 住民主体の「協議体」が活動しています



観音寺市第1層生活支援コーディネーター
宮武 千恵子 さん

13の協議体はかんおんじの宝物であり、財産

誰もが住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けるためには、自分の健康は自分で守ること、また、地域の人との交流など社会参加をすること、そして、困ったときにはお互いが助け合うことが大切です。

住民同士で支え合いのできる地域になるために「第2層協議体」を立ち上げようと、7年前から各地に出向き、必要性を訴えてきました。すでに自治会や民生委員、地域のボランティア活動に従事している人も多く、「これ以上協力できない」という声に何度もくじけそうになりましたが、あきらめずに訴え続

けた結果、次第に地域での助け合いの必要性を理解してくれる人が増え、市全域で13の協議体が立ち上がりました。

地域にはそれぞれ特徴があり、ニーズは異なります。どの協議体も試行錯誤しながら話し合いを続け、地域の課題を見つけ、時間をかけて課題の整理をしながら方向性を見出しています。防災、移動支援、居場所づくりなど、行政では考えつかないような取り組みを自分たちで考え、活動できています。

協議体の強みは、思いのある地域住民が集まり、ボランティアで取り組んでいる点にあります。自分たちが住んでいる地域がどんなになったら暮らしやすくなるのだろうかという目標に向かって思いを一つにし、助け合いの輪を広げています。協議体はかんおんじの宝物であり、財産です。この活動が持続可能なものになるよう、今後も楽しく取り組んでいきたいと思っています。



民生委員をしていたきっかけで参加。東公民館を拠点に、皆が集まりやすいよう、一人暮らしの高齢者の方を対象に「200円ランチ」の会を開き、喜んでいただいています。今は7人で活動しており、メンバーを募集中です。互いに仲良く、寄り添い合える地域になれるよう、集える場所づくりをしていきたいです。

大西 充城さん



よらんな東(観音寺東公民館区)

メンバーの経験やキャリアを軸に、地区の防災を要として、防災講演会や避難所見学ツアー、防災体験会などを行っています。自分の地区で起こりうる被害に焦点を絞った防災講演会では、とことん質疑応答を行い、とても充実した時間になったと思います。地区内での認知度や信頼を得られるよう、今後も協力して活動を続けていきます。

白川まり子さん



スマイル観南(観音寺南公民館区)

退職後、地域とのつながりを求めて参加。現在は、防災マップの作成に向け、住民調査票や世帯カードを回収中です。公衆トイレや公衆電話の位置、医療従事者や建設業者などの情報を盛り込み、災害時に役立つ地図を作ろうと考えています。地域で安心安全に生活ができるよう自治会と連携し取り組みます。

村上茂樹さん



にっこり西クラブ(観音寺西公民館区)

地域の知り合いが困っていたら何かしてあげたいという気持ちで活動を始めました。買い物に困っているという声を聞いて、地区4カ所で移動販売車に来てもらっており好評です。高齢化が進む中、認知症の認識を高める必要があります。当事者や家族を孤立させないよう、どう地域で関わっていかなくてはならないと思います。

矢野郁士さん



あいあい高室(高室地区)

民生委員と兼ねて活動を始め、現在はメンバー16名で活動しています。伊吹は離島で不便な面があり、普段から近所での助け合いが多く、コミュニティがしっかりしています。高齢化と人口減少で、昔と比べ島内の様子は随分変わりましたが、人情と助け合いは変わらず残していきたいと思っています。

伊瀬啓さん



元気!!伊吹(伊吹地区)

常磐は、もともと地域住民による活動が盛んな地域です。常磐の歴史などを盛り込んだ歌詞を皆で考え、「ときたり体操」を1年かけて作りました。少しでも体を動かしてもらおうと散歩ツアーやゲームの企画もしています。これからもみんなで考えて、活動していきます。

高橋秀数さん



たりたりときわ(常磐地区)

地域の防災訓練や文化祭に参加してアンケートを取り、どんなことに困っているのかを聞きました。災害の不安が半数以上で、今は防災マップの作成に取り組んでいます。自治会や愛育会、子ども会、老人会など各団体と連携し、若い方も活躍できるように取り組んでいきたいです。

牧員代さん



ほのぼの柞田(柞田地区)

協議体立ち上げ当初から参加してきました。今後も、地域住民を巻き込み、みんなの声を聞きながら、一緒になってやっていきたいです。木之郷では高齢者の一人世帯は比較的少ないですが、年を取っても、何も心配せずに暮らせるような地域になったらと思います。

中塚一男さん



GOGO木之郷(木之郷地区)



市内全域には「第2層協議体」と呼ばれる地域づくりのグループがあり、4月現在で234人が参加しています。第2層協議体の取り組みは全国にありますが、住民主体の活動は珍しく、観音寺市は先進的だと注目されています。地域をつなぐ13の協議体の皆さんは「協議隊」とも言うべき地域のヒーロー。13協議体の皆さんを紹介します。

くかんおんじには第2層協議「隊」がいる

地域をつなぐ 13のちから

私たちは第2層協議「隊」



一ノ谷地区では地域のボランティア活動が根付いており、協議体もスムーズに始まりました。買い物支援やサロンなどをボランティアで運営しています。自分の活動が地域の役に立っていると思えるとき、やりがいを感じます。自然と皆が集まって楽しく過ごせるような取り組みを続けていきたいです。

筒井幸子さん



あったか一ノ谷(一ノ谷地区)

大野原は8分団に分かれた広い地区で、住民の声を聞くのは難しい面があります。今は、各地域にいきいきサロンを作り、集まれる場を増やそうと働きかけています。大野原は住民同士の触れ合い、助け合いが昔からある地域です。皆が「大野原において良かった」と思えるような地域にしていきたいと思っています。

茨木大さん



おいでよ大野原(大野原地区)

人口が減り、高齢化が進む中でも楽しく過ごせる栗井を作ろうと思って活動を始めました。移動支援、楽しくあわい体操など、できることから取り組んできました。今後は自治会や班単位など小さい単位での助け合いが目標。隣近所での助け合いをもう一度取り戻したいです。

宝田公治さん



楽しくあわい(栗井地区)

平成29年に市内で初めて発足し、豊田地区の23自治会からメンバーを集め、困りごとを持ち寄って話し合うことから始めました。貯筋体操、移動支援、防災などさまざまな取り組みをしています。子どもからお年寄りまで住みやすい地域になるよう、メンバー一丸で頑張っています。

今井節子さん



いきいきとよた(豊田地区)

自治会や福祉委員の活動をきっかけに参加しました。サロンを開き、徐々に参加者も増えて盛り上がっています。豊浜は、地区ごとに地形や人口などに違いがあり、困りごとなども差が見られます。過疎化が進んでおり、助け合いがますます必要になってきます。「何しよんな」と気軽に声を掛け合い、助け合えるような地域づくりをめざします。

脇靖弘さん



ぼちぼちとよはま(豊浜地区)

地域づくりを考えるつどいを開催



1～3 第2層協議体の活動紹介パネルを展示し、各地区の生活支援コーディネーターが説明 4～7 グループに分かれ地域の課題や今後の取り組みなどを和気あいあいと話し合い。各グループに第1層・第2層協議体のメンバーが入ってサポート 8・9 地域づくりに関心のある市民で会場は満員。メモを取る姿も 10 市民ボランティアによる「ほっこり劇団」が名演

参加者の声



チラシと市のLINEでのお知らせを見て参加しました。これまで、地域の方がこのような活動をされていることを知りませんでした。こんなにたくさんの方がそれぞれの地域を支えていることを知って、私たちがこれから地域のために頑張っていきたいと思いました。

大学生 大西 桃佳 さん（豊田地区）



2月28日、ハイスタッフホールで、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる地域づくりについて地域住民が考えるつどいが開催され、約150人が参加しました。独居高齢者の孤立を防ぐために地域でできることを寸劇で披露したほか、市内13地区の第2層協議体のメンバーが、それぞれの地区での取り組みや活動内容を紹介。休憩時間には、活動をまとめたパネルやのぼりを熱心に見ながら、担当者に質問をしている参加者が多くみられました。

座談会では、飲み物を片手にリラックスした雰囲気の中でテーブルごとに参加者同士がそれぞれの思いや課題をじっくりと話し合っていました。



第2層協議体に参加するには？

市内全域で13の第2層協議体があります。自分の住む地域のために、自分にできることをやってみようという思いがあれば、誰でも参加できます。お気軽に下記まで問い合わせてください。

問い合わせ先

高齢介護課 地域包括支援センター
☎ 25-7791

参加者アンケートから見える課題「大切な地域のつながり、どう育む？」

参加者アンケートに書かれた、市民の皆さんの地域づくりに関する思いや意見を紹介します。

- ・コロナから特に地域のつながりが薄くなっている。次の世代へのバトンタッチが難しくなっている。
- ・自分の地域にも取り入れたいことがたくさんあった。地区の人のことをもう少し深く知って、助け合いができれば良いと思う。
- ・現在、地域のつながりが薄れている。高齢者世帯が増え、最後は一人暮らしになる可能性がある。隣近所のつながりを大切に助け合っていくことが必要だ。
- ・地域のつながりの大切さをあらためて感じた。人と人とのつながりはどうやって育むか？見たことある人、ない人、それは近所でもよくあること。出会いの基盤を考えなければならない。

観音寺市は熱い！何の話かという「協議体」の活動の様子を伺った時の、私の感想です。地域愛にあふれる人たちが集まり、情報を共有し、意見を交わしながら、もっと住みやすい地域を作っていく。これが実際にできている地域は、全国でも少ないですが、熱く、楽しみながら実践している観音寺市。今後も期待しています。



公益財団法人さわやか福祉財団
長瀬 純治 さん

観音寺市は熱い！



昨年10月に開催された「いきがい・助け合いオンラインフェスタ2023」で観音寺市の第2層協議体の活動が紹介され、関係者が登壇しました。